



平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年10月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ドリコム

コード番号 3793 URL <http://www.drecom.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 内藤 裕紀

問合せ先責任者 (役職名) 経営管理本部長 (氏名) 後藤 英紀

TEL 03-6682-5700

四半期報告書提出予定日 平成24年11月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	4,166	55.4	168	△70.1	166	△70.4	93	△83.4
24年3月期第2四半期	2,680	—	564	—	562	—	561	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	686.48	680.06
24年3月期第2四半期	4,156.34	4,114.62

(注)当社は平成23年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行いました。平成24年3月期期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第2四半期	4,454	2,307	50.3	16,510.33
24年3月期	4,458	2,219	48.7	16,009.18

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 2,238百万円 24年3月期 2,169百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,000	11.3	100	△92.6	100	△92.6	60	△92.5	442.52

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

業績予想の修正につきましては、本日(平成24年10月31日)公表いたしました「平成25年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 有
 ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第5条の4に該当するものであります。詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期2Q	135,600 株	24年3月期	135,250 株
② 期末自己株式数	25年3月期2Q	— 株	24年3月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期2Q	135,588 株	24年3月期2Q	135,102 株

- (注) 1. みずほ信託銀行株式会社(以下「ESOP信託口」という。)が所有する当社株式413株(議決権の数413個)につきましては、上記期末自己株式数に含めておりません。
 2. 期中平均株式数には、ESOP信託口が所有する当社株式を含めております。これは当社とESOP信託口が一体であるとする会計処理に基づき、ESOP信託口が所有する当社株式を含めて自己株式として処理しているためであります。
 3. 当社は平成23年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行いました。平成24年3月期期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期中平均株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信(四半期決算短信)の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(6) セグメント情報等	8
(7) 重要な後発事象	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 業績の状況

当第2四半期累計期間における我が国経済は東日本大震災からの復興需要等により一部では回復の兆しが見られたものの、欧州債務危機問題への不安感による円高の持続や株式市場の低迷など、依然として先行き不透明な状態で推移致しました。

インターネットビジネスを取り巻く環境は引き続き急速に変化しており、中でもスマートフォンの普及が大きな影響を与えています。スマートフォンの登場により未開拓の市場がもたらされたことで、サービス提供の機会が増え新しいサービスが次々と創出されています。海外へのサービス提供が容易になったこともあり、今後も参入競争は激化し、収益獲得の機会は広がっていくものと見られます。

このような環境の中、ソーシャルゲームサービス事業ではヒット作「戦国フロンティア」のシステムを基にした新作を複数リリースしました。しかしながらユーザーの十分な支持を得られず、スマートフォンへの移行に伴うブラウザゲームの利用者減少も影響し、新作ゲームのDAU（一日あたりのサービス利用者数）は計画を下回る結果となりました。これを受け、スマートフォンでの利用環境向上にむけた改善を始めましたが、第2四半期累計期間中の対応は一部にとどまり、当初計画通りの利用者数獲得には至りませんでした。一方で減少傾向が見られた「陰陽師」「ちょこっとファーム」など既存ゲームの売上は底入れし、堅調な推移となりました。費用面では、リリースの集中に合わせた体制強化が一段落し人件費の増加ペースが一巡した反面、新作リリース後は運用本数増加によるコスト増に加えソフトウェア償却費用が発生したほか、リリース集中にあわせ広告宣伝費を投下しました。

加えてアドソリューション事業では、動画を利用したリワード広告が好評を得、掲載メディアと出稿クライアント両面の拡大が進みました。これに伴い、仕入高や通信費などの売上連動費用が増加する結果となりました。

さらに、投資段階にあるソーシャルラーニング事業では、平成24年7月18日に二本目の学習アプリ「グルタン 英単語で世界周遊」をリリースしました。リリース後は利用者の動向を分析し、順次改善を進めております。

総じては、主軸のソーシャルゲーム事業で売上成長が当社想定以下となり、売上増を想定した体制強化による費用増を賄えず、前年同期比増収減益となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は4,166,120千円（前年同期比55.4%増）、営業利益168,816千円（前年同期比70.1%減）、経常利益166,595千円（前年同期比70.4%減）、四半期純利益93,078千円（前年同期比83.4%減）となりました。

セグメント実績は、以下の通りであります。

①エンタメウェブ

エンタメウェブでは、ソーシャルゲーム事業において前四半期から提供している「戦国フロンティア」のゲームシステムを採用した新作を複数リリースしました。新作ゲームの利用者数が想定を下回ったことを受け、利用環境の最適化に努めましたが、当初計画通りユーザー数を伸ばすまでには至りませんでした。一方「陰陽師」「ちょこっとファーム」などの既存ゲームは堅調に推移いたしました。さらに、海外向けタイトルとしてカードバトルゲーム「DragonDreizehn」をリリースし、利用者拡大を目指し集客力強化にむけたテストマーケティングを行っております。複数の新作をリリースしたことから、当累計期間においてはアプリ本数増加に伴う開発コスト、運用コスト増加に加えて、一アプリあたりの収益を最大化するため広告宣伝費を先行投下しました。

ソーシャルラーニング事業においては、二本目のアプリとなる「グルタン英単語で世界周遊」をリリースし利用環境の改善に努めております。同事業は、現時点では投資段階にあり、業績への影響は軽微です。

以上のことから、セグメント売上高は3,765,836千円（前年同期比57.1%増）、セグメント利益は269,084千円（前年同期比53.5%減）となりました。

②マーケティングソリューション

マーケティングソリューションでは、アドソリューション事業において、掲載メディアと広告出稿クライアント両面の拡大に努めた結果、動画を利用したリワード広告が好評を得、拡大が進みました。しかしながら視聴数の伸び悩みから売上の伸長は想定以下であり、掲載メディアの拡大に伴うシステムの相互繋ぎ込みに開発工数を要したこともあり、損失を計上する結果となりました。

以上のことから、セグメント売上高は423,124千円（前年同期比46.2%増）、セグメント損失は100,267千円（前年同期比624.2%減）となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産は3,495,396千円となり、前事業年度末に比べ276,565千円減少いたしました。これは主に短期貸付金が84,100千円増加したものの、売掛金が202,779千円、未収入金が119,604千円減少したことによるものであります。固定資産は958,839千円となり、前事業年度末に比べ272,137千円増加いたしました。これは主に無形固定資産が246,764千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、4,454,236千円となり、前事業年度末に比べ4,427千円減少いたしました。

(負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債は1,740,871千円となり、前事業年度末に比べ226,657千円減少いたしました。これは主に1年内返済予定の長期借入金が100,000千円増加したものの、未払消費税が83,908千円、未払法人税等が245,560千円減少したことによるものであります。固定負債は405,457千円となり、前事業年度末に比べ134,029千円増加いたしました。これは主に長期借入金が143,342千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、2,146,328千円となり、前事業年度末に比べ92,627千円減少いたしました。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は2,307,907千円となり、前事業年度末に比べ88,199千円増加いたしました。これは主に四半期純利益93,078千円によるものであります。

この結果、自己資本比率は50.3%(前事業年度末は48.7%)となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、第2四半期累計期間の業績が未達であったことに加えて、新作ゲームが十分な支持を得られなかった影響とスマートフォンの普及に伴うブラウザゲームの利用者減が続く見通しであるため、平成25年3月期の通期業績を修正致しました。

詳細につきましては、本日(平成24年10月31日)公表いたしました「平成25年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別する事が困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による損益に与える影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,911,296	1,888,581
売掛金	1,662,238	1,459,458
前払費用	19,753	11,186
繰延税金資産	43,841	22,741
短期貸付金	—	84,100
未収入金	140,041	20,436
その他	2,008	11,190
貸倒引当金	△7,218	△2,299
流動資産合計	3,771,961	3,495,396
固定資産		
有形固定資産		
建物	184,336	161,584
減価償却累計額	△40,701	△14,289
建物(純額)	143,634	147,294
工具、器具及び備品	68,583	57,358
減価償却累計額	△43,112	△36,364
工具、器具及び備品(純額)	25,470	20,994
有形固定資産合計	169,105	168,289
無形固定資産		
ソフトウェア	168,148	460,962
ソフトウェア仮勘定	63,476	17,521
その他	1,085	991
無形固定資産合計	232,711	479,475
投資その他の資産		
関係会社株式	—	49,500
敷金	202,714	146,040
繰延税金資産	82,121	115,483
その他	50	50
投資その他の資産合計	284,885	311,074
固定資産合計	686,702	958,839
資産合計	4,458,663	4,454,236

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	246,465	244,220
短期借入金	150,000	168,000
1年内返済予定の長期借入金	113,316	213,316
未払金	943,188	941,638
未払法人税等	347,231	101,671
未払消費税等	94,029	10,121
前受収益	12,691	591
賞与引当金	18,272	24,865
その他	42,332	36,447
流動負債合計	1,967,528	1,740,871
固定負債		
長期借入金	161,691	305,033
長期未払金	75,783	66,219
資産除去債務	33,953	34,204
固定負債合計	271,427	405,457
負債合計	2,238,955	2,146,328
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,059,807	1,060,624
資本剰余金	1,300,787	1,301,603
利益剰余金	△190,951	△97,872
自己株式	—	△25,555
株主資本合計	2,169,643	2,238,800
新株予約権	50,064	69,107
純資産合計	2,219,708	2,307,907
負債純資産合計	4,458,663	4,454,236

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	2,680,555	4,166,120
売上原価	1,231,164	2,647,462
売上総利益	1,449,391	1,518,657
販売費及び一般管理費	884,523	1,349,841
営業利益	564,867	168,816
営業外収益		
為替差益	143	—
業務受託料	—	3,000
その他	521	772
営業外収益合計	665	3,772
営業外費用		
支払利息	2,881	5,908
その他	—	84
営業外費用合計	2,881	5,993
経常利益	562,651	166,595
特別利益		
事業譲渡益	—	10,417
特別利益合計	—	10,417
特別損失		
固定資産除却損	255	160
特別損失合計	255	160
税引前四半期純利益	562,395	176,853
法人税、住民税及び事業税	1,159	96,037
法人税等調整額	△294	△12,262
法人税等合計	865	83,774
四半期純利益	561,529	93,078

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	562,395	176,853
減価償却費	88,248	148,809
のれん償却額	49,781	—
株式報酬費用	10,850	19,526
事業譲渡損益(△は益)	—	△10,417
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△2,694	△4,918
賞与引当金の増減額(△は減少)	7,179	6,593
受取利息及び受取配当金	△61	△500
支払利息	2,881	5,908
売上債権の増減額(△は増加)	△495,638	202,779
仕入債務の増減額(△は減少)	40,942	△2,245
未払金の増減額(△は減少)	202,728	△23,439
未払消費税等の増減額(△は減少)	27,912	△83,068
その他	4,517	671
小計	499,042	436,551
利息の受取額	61	195
利息の支払額	△2,653	△5,915
法人税等の支払額	△3,410	△334,636
営業活動によるキャッシュ・フロー	493,039	96,194
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△6,178	△22,932
無形固定資産の取得による支出	△77,575	△383,819
関係会社株式の取得による支出	—	△49,500
短期貸付金の純増減額(△は増加)	—	△84,100
敷金の回収による収入	—	56,673
敷金の差入による支出	△7,848	—
事業譲渡による収入	—	127,833
投資活動によるキャッシュ・フロー	△91,602	△355,845
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	50,000	18,000
長期借入れによる収入	—	300,000
長期借入金の返済による支出	△94,730	△56,658
株式の発行による収入	6,708	1,149
自己株式の取得による支出	—	△25,555
財務活動によるキャッシュ・フロー	△38,021	236,936
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	363,415	△22,714
現金及び現金同等物の期首残高	573,370	1,911,296
現金及び現金同等物の四半期末残高	936,785	1,888,581

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

I 前第2四半期累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期 損益計算書 計上額 (注) 1
	エンタメウェブ	マーケティング ソリューション	計		
売上高					
(1)外部顧客への 売上高	2,391,511	289,044	2,680,555	—	2,680,555
(2)セグメント間の 内部売上高又は 振替高	5,439	398	5,837	△5,837	—
計	2,396,950	289,442	2,686,393	△5,837	2,680,555
セグメント利益又は損 失(△)	578,713	△13,845	564,867	—	564,867

(注) 1. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期 損益計算書 計上額 (注) 1
	エンタメウェブ	マーケティング ソリューション	計		
売上高					
(1)外部顧客への 売上高	3,765,836	400,283	4,166,120	—	4,166,120
(2)セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	22,841	22,841	△22,841	—
計	3,765,836	423,124	4,188,961	△22,841	4,166,120
セグメント利益又は損 失(△)	269,084	△100,267	168,816	—	168,816

(注) 1. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。